

選択領域「教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項」(6時間)

講習名	「国語」教材の講読Ⅰ			時間	6時間			
講習日	平成26年8月2日(土)			定員	35名			
主な対象者	高等学校及び中学校の国語教諭			認定番号	平26-20076-55882号			
担当講師	月野 文子(国際文理学部教授)							
	工藤 重矩(客員教授)							
講習の概要	古典(古文・漢文)に関して、原典を専門的に読み解いていくことにより、「国語」教材に対する読解力と指導力の更なる向上を目指す。基本的にはひとつの作品を丹念に講読していくことによって、活発な意見交換がはかれるようとする。							
講習日程	1限	9:00~10:30 (90分)	日本の漢詩を 読む (月野 文子)	近年は日本漢詩も教科書に載るようになりましたが、大学の漢文の授業ではなかなか取り上げられる機会はないようです。 そこで、本講座では江戸時代の漢詩を少しまとまつたかたちで読むことによって、江戸時代の詩人たちの作詩活動のイメージをつかむことができるよう工夫したいと思っています。また、〈推敲〉の方法についても考えてみます。				
	2限	10:45~12:15 (90分)		※講習内容に関する理解確認のための記述試験を時間内にて実施します。				
	3限	13:30~15:00 (90分)	源氏物語の紫の上 をめぐる構想を読む (工藤 重矩)	『源氏物語』葵巻には、正妻葵の上の死後、若紫との新枕があり、光源氏は三日夜の餅を密かに用意させます。めでたいはずの三日夜の餅を、なぜ隠そうとするのでしょうか。当時の婚姻制度を明らかにしつつ、光源氏の意図や紫の上のつまとしての立場、物語の構想を読み解きます。源氏物語教材を線として理解する手懸りを提示できればと思っています。				
	4限	15:15~16:45 (90分)		※講習内容に関する理解確認のための記述試験を時間内にて実施します。				
履修認定の方法	各講習時間内に履修認定試験を実施し、60点以上を合格とする。							
当日の準備物	筆記用具							

選択領域「教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項」(6時間)

講習名	「国語」教材の講読Ⅱ			時間	6時間			
講習日	平成26年8月4日(月)			定員	35名			
主な対象者	高等学校及び中学校の国語教諭			認定番号	平26-20076-55883号			
担当講師	今井 明(国際文理学部教授)							
	大久保 順子(国際文理学部准教授)							
講習の概要	古典を中心に、原典を専門的に読み解いていくことにより、「国語」教材に対する読解力と指導力の更なる向上を目指す。基本的にはひとつの作品を丹念に講読していくことによって、活発な意見交換がはかれるようにする。							
講習日程	1限	9:00～10:30 (90分)	『平家物語』の 「かたり」 (今井 明)	「平家物語」は、生徒にも人気のある古典作品です。『徒然草』226段が伝える「平家物語」成立に関する逸話をヒントに、「平家物語」の物語としての特徴や、その成立の背景について読み解いてみようと思います。教科書では、抒情的な文体の「覚一本」系統の本文で物語を鑑賞することが多いけれども、読み本系統の「延慶本」などと比較しながら、「平家物語」の創作の機微にも触れられたらと思っています。				
	2限	10:45～12:15 (90分)		※講習内容に関する理解確認のための記述試験を時間内に実施します。				
	3限	13:30～15:00 (90分)	連句的発想の文体 —細部にやどる古文 のレトリック— (大久保 順子)	古文教材でおなじみの芭蕉・蕪村・一茶の「俳句」や俳文的な文章を読解するには、書かれた文章の表層を直接要約するのではなく、古典文学全般のイメージと江戸時代的「俳諧」の感覚の共有を必要とします。本講座では、芭蕉や西鶴の作品にみる「俳」の発想や「連想する」文体の特徴を追ながら、その細部と余韻の読み方について考えます。				
	4限	15:15～16:45 (90分)		※講習内容に関する理解確認のための記述試験を時間内に実施します。				
履修認定の方法	各講習時間内に履修認定試験を実施し、60点以上を合格とする。							
当日の準備物	筆記用具							

選択領域「教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項」(6時間)

講習名	「国語」教材への視点			時間	6時間
講習日	平成26年8月5日(火)			定員	35名
主な対象者	高等学校及び中学校の国語教諭			認定番号	平26-20076-55884号
担当講師	橋本 直幸(国際文理学部講師) 坂本 浩一(国際文理学部准教授)				
講習の概要	教科書に採択されている国語教材については、作品の一部に留まっていることが多い。本講習では、教材をめぐって、新知見からなる読解の方法の提示や日本語教育との対照など、国語教育に関わる問題を示し、新たな授法を考える一助とする。				
講習日程	1限 2限	9:00～10:30 (90分) 10:45～12:15 (90分)	日本語教育の文法と国語教育の文法 (橋本 直幸)	ことばの「产出」をその主な目的とする日本語教育と、「理解」に重点を置く国語教育とでは、何がどのように違うのか。活用や品詞の分類など文法項目に焦点を当て、日本語教育で教えられる文法と国語教育で教えられる文法との違いやその問題点を考えます。また、近年、日本語教育の分野で多くの試みがある文法の学習項目の見直しについても紹介し、学習者にとって本当に必要な文法教育とは何かを考えます。 ※講習内容に関する理解確認のための記述試験を時間内にて実施します。	
	3限 4限	13:30～15:00 (90分) 15:15～16:45 (90分)	言語の構造と古典読解 (坂本 浩一)	古典文を読み解く上でポイントとなる言語の統合的構造(文法的構造)と連合的構造(語彙的構造)を十分に把握し活用した読解法、教授法について講義します。教科書にもよく取りあげられる『竹取物語』等の物語類や勅撰和歌集などの古典資料を主要題材として、古典語と近代語の統合的構造の変遷を視野に入れた教材研究の実例や、連合的構造に着目した教材活用法のヒントなどを交えて示します。 ※講習内容に関する理解確認のための記述試験を時間内にて実施します。	
履修認定の方法	各講習時間内に履修認定試験を実施し、60点以上を合格とする。				
当日の準備物	筆記用具				

選択領域「教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項」(6時間)

講習名	境界を超える「文学」・「歴史」・「ことば」			時間	6時間			
講習日	平成26年8月6日(水)			定員	35名			
主な対象者	高等学校及び中学校の国語教諭			認定番号	平26-20076-55885号			
担当講師	渡邊 俊(国際文理学部講師)							
	今井 明(国際文理学部教授)							
	矢野 準(国際文理学部教授)							
講習の概要	日本の文学及び歴史、また日本語学をめぐる最近の研究動向を踏まえつつ、文学的・歴史学的・語学的な諸問題を講じていく。学際的な手法を取り入れることによって、「国語」教材の研究にも有益となる新たな視点を取り込む。							
講習日程	1限	9:00~10:30 (90分)	中世の思想と 他界観 (渡邊 俊)	<p>「平家物語」や「太平記」などの古典作品がもつ世界観を理解するためには、その作品の背景にある当時の人々の思想や他界観に関する知識が必要となります。</p> <p>本講義では、中世史料に垣間見える当時の人々が抱いていた思想や他界観・世界観について検討します。あわせて、当時の政治や文化についても、思想・他界観の観点からふれたいと考えています。</p> <p style="color: red;">※講習内容に関する理解確認のための記述試験を時間内にて実施します。</p>				
	2限	10:45~12:15 (90分)	「もの」と「こころ」と 和歌 (今井 明)	<p>「物」と「心」から見る和歌表現。ここでは、古典和歌の結句表現に着目して、どのような「物」が和歌の「心」を形づくっているかを考えてみたいと思います。具体的には「～ものにぞありける」や「～ここちこそすれ」などの結句に接続する上四句のバリエーションを確かめ、そこに現れる「物」が「心」と結びつき、「文学」への道筋をたどる過程を追っていきます。こうした視点から、日本文学の伝統的な表現世界を垣間見ることができれば、と目論んでおります。</p> <p style="color: red;">※講習内容に関する理解確認のための記述試験を時間内にて実施します。</p>				
	3限	13:30~15:00 (90分)	日本語と古典 (矢野 準)	<p>言葉のおもしろさを見直すことにより、国語教材への新しい見方のヒントを提示できればと思います。180分ありますので、前半は「言語遊戯と古典」、後半は「係り結びの働きとは何か」という2つの題目に分けて、それぞれ異なった問題の提起をしたいと思います。</p> <p style="color: red;">※講習内容に関する理解確認のための記述試験を時間内にて実施します。</p>				
	4限	15:15~16:45 (90分)		<p style="color: red;">※講習内容に関する理解確認のための記述試験を時間内にて実施します。</p>				
履修認定の方法	各講習時間内に履修認定試験を実施し、60点以上を合格とする。							
当日の準備物	筆記用具							